

海老名市郷土資料館 温故館の建物年齢 ことしで100歳です

閩教育総務課 ☎(235)4925

特徴は「和洋折衷」

上げ下げ窓や玄関ポーチなど洋風建築の要素を取り入れている一方、土台や軸組みなどは日本在来の工法を踏襲した和洋折衷の建物。海老名村国分の棟梁が手掛けました。



「バードボード」と呼ばれる屋根の下の飾りが特徴



大正時代からそのまま使用しているゆらゆらと見えるガラスの窓

初代温故館の建物

大正10(1921)年に海老名小学校校庭内に建築。同年に国の史跡に指定された「史跡相模国分寺跡」の出土品などを保管するために建てられました。約3坪の小さな建物で、名前の由来は「温故知新」から。



市内の遺跡から出土した土器や民具などを展示している温故館。もともとは海老名村役場庁舎として建築されたものです。村役場から町役場、商工会、そして温故館へ。海老名の発展とともに役目を変えながら、大正から平成の3つの時代を経てきた建物です。大正7(1918)年の建築からことしで100年を迎えました。

もとは海老名村役場庁舎

1階が窓口業務・事務スペース、2階が議場でした。村から町へ発展する規模に合わせ、増築を繰り返して活用しました。



「かながわの建築物100選」に

関東大震災前に建てられた希少な地方庁舎建物として、平成2(1990)年に選定されました。

海老名村役場として建築

明治時代中期に「市制・町村制」が施行され、海老名村役場が国分に、有馬村役場が中野(後に中河内)に設置されました。明治43(1910)年、「国分の大火」で海老名村役場庁舎は焼失してしまいます。新庁舎を国分の辻通りに建築したのは今から100年前の大正7(1918)年。これが今の温故館の建物です。洋風建築は当時の海老名周辺では珍しいものでした。100年前の海老名の民家は江戸時代以来の麦わらや茅葺で土間のあるものが多く、河原口などに電灯が初めて設置されたのもその頃です。

庁舎とともに村から町へ

町制施行で村役場庁舎は「海老

名町役場」と名を変えました。昭和30(1955)年には海老名町と有馬村が合併。新たな海老名町となった後も、引き続き同じ建物を庁舎として使用しました。



中河内の昭和3年頃の有馬村役場庁舎。海老名町との合併後は支所として使用した

海老名の発展に伴って 温故館に

合併当時の海老名町の人口は約1万6500人。11年後の昭和41(1966)年には約3万2000人と2倍に増え、発展する海老名

に合わせて同年、現在の中央二丁目付近に新庁舎を建築。旧庁舎はその役目を終えました。その後、海老名町(市)商工会の建物として55(1980)年まで、57(1982)年からは海老名市郷土資料館「海老名市温故館」として歩み始めます。

平成18(2006)年、耐震不足が判明して休館に。「保存」か「取り壊し」かを検討の結果、改修・移築をして23(2011)年に再開し、現在に至ります。県内で現存する最古の庁舎建築となった建物は、展示品とともに海老名の歴史を今に伝えています。



温故館企画展

海老名村役場建築100周年記念 「海老名の近代建築と古民家」

旧海老名村役場庁舎建築にかかわる資料や、市内の主な近代建築や古民家を紹介します。

期 12月9日(日)まで(企画展期間中は無休) 場 海老名市温故館 費 無料 時 11月4日(日)・12月1日(土)10時から30分程度の展示解説あり



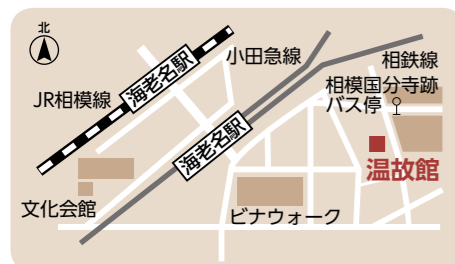
杉久保に残る長屋門



昭和14年頃の旧相模鉄道厚木駅

温故館 施設情報

所在地 国分南1-6-36
電話番号 ☎(233)4028
開館時間 9時~17時15分
休館日 年末年始、臨時休館あり



小田急線・相模線「海老名駅」から徒歩約11分。コミバス国分ルート「相模国分寺跡」下車、徒歩約1分

平成					昭和					大正			明治		和暦		
30年	23年	18年	2年	元年	57年	46年	41年	39年	30年	15年	14年	12年	10年	7年	43年	22年	
2018	2011	2006	1990	1989	1982	1971	1966	1964	1955	1940	1925	1923	1921	1918	1910	1889	西暦
温故館の建物年齢が100歳	模国分寺跡(西側)に移築・開館	耐震不足により温故館休館	温故館が「かながわの建築物100選」に選定	新庁舎(現庁舎)を勝瀬に建築	旧海老名町役場庁舎を改修し、海老名市温故館として開館	〔市制施行〕 温故館を旧中央公民館向かい(現中央二丁目付近)に移転	新庁舎を国分(現中央二丁目付近)に建築	温故館を史跡相模国分寺跡中門付近に移転	旧有馬村役場が海老名町役場支所になる	〔町制施行〕 「海老名村役場」が「海老名町役場」になる	温故館を海老名村役場敷地内に移転	初代温故館倒壊	初代温故館を海老名小学校の校庭に建築	海老名村役場庁舎を国分(現消防団第1分団器具置場付近)に建築	「国分の大火」で、海老名村役場庁舎焼失	海老名村・有馬村誕生	

温故館と庁舎の歴史

でわいん